

鹿児島医セン

連携室だより

2006.12 No. 9

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

中間管理者研修を開催

第2回中間管理者研修が、17年度に引き続き、院長・看護師長・副看護師長・技師長・事務職（係長以上）など役職職員約70名が参加し、12月1日～2日（1泊2日）にかけて、「国民宿舎レインボー桜島」において開催されました。

今回のテーマは「平成19年度目標に対する問題点等」ということで、第1日目は、中村院長の” 当院の現状と今後の方針について” という講義で始まり、講義終了後、宴会場の「あここの間」において、深夜に及ぶ活気のある意見交換会が行われました。第2日目は午前9時から ①「地域がん拠点病院の充実について」②「オーダリング導入について」③「地域連携室の体制強化について」④「東4階病棟のオープンについて」という4つのテーマを8班に分かれ、グループ討議を行い、午後から各班が発表するというスケジュールで進行しました。

限られた短い時間の中で、各班が討議→まとめ→発表という職種・職場を超えた熱心な討議・意見交換が行われ、有意義な研修となり、十分成果があったと感じました。



グループ講義

今後の病院運営について、当院の中間管理職が、こんなにも病院のことを真剣に考えていたということは、今後とも病院が、ますます発展・充実していく要素が、十分あり将来性を確信することができました。

発表・提案の中には、院長や幹部職員も驚くような病棟再編の基本方針を変更してほしいというような斬新な意見もあり、今後幹部会議や診療部長会議などで早急に検討し、結論を出さざるを得ない状況となり、幹部職員は逆にハツパをかけられたような気がしました。

研修会の最後には、慈恵会今村病院の野村院長先生から「DPCの現状と今後」というご講演をいただき、DPCに対する理解を深めることができ非常に良かったと思います

また、参加者全員の投票により優秀なチームに、来年の新年会（1月5日）において、院長賞・副院長賞・診療部長賞を発表し、表彰する予定です。

事務部長 山崎 一雄



DPC講演

院長による講義



循環器病看護エキスパートナース研修について

米森 篤子

九州ブロック事務所主催の循環器病看護エキスパートナース研修は、平成14年から当院で開催され、今回で5回目となります。今年も九州ブロック内の循環器病急性期患者を受け入れている施設に勤務する看護師14名が参加し、11月13日～17日の5日間、研修が実施されました。増改築が終了し、新しく生まれ変わった鹿児島医療センターで、他施設の研修生を受け入れたことは、有意義であり、大変嬉しく思いました。

研修の目的は、循環器病看護の質の向上を図るため、患者個々に応じた専門的なアセスメント及び看護実践ができる能力を育成することです。

研修の内容としては、循環器病棟・心臓カテテル室・手術室・ICUの2日間の見学実習と循環器内科・心臓血管外科医師や看護師長・副師長による循環器疾患の病態生理・検査、治療、看護に関する2日間の専門的な講義でした。最終日には「危機的状況にある患者の看護について」講義とグループワーク、発表を行いました。

研修生は事前に「エキスパートナースとしての自己の課題」と「危機的状況にある循環器病患者の看護」について課題を提出し、各自目的をもって研修に臨みました。また、研修終了後、自施設で、研修での学びをいかし「自己課題達成に向けた具体的行動目標」と取り組みの結果報告を行うよう計画をしています。

研修後アンケートの結果では、「専門的な知識や看護技術等の多くのことを習得できた」や、半数の研修生より「内容が豊富であり、もう少し期間を長くして欲しい」という意見がありました。初日の研修会終了後のドルフィンポートでの意見交換会は、講義担当の先生方や実習病棟師長・研修企画関係者など多数参加し、他施設との情報交換など和気藹々とした雰囲気楽しいひと時を過ごせました。

当院は循環器・がんの専門医療施設です。機構の循環器基幹医療施設として高度先駆的医療の提供や専門性の高い医療を提供する役割を担った病院として、今後も積極的に研修生を受け入れ、共に研鑽していきたいと思います。



新new人 紹face介

耳鼻咽喉科医師



たにもと よういちろう
谷本 洋一郎

平成13年に大分医科大学を卒業し、鹿児島大学医学部耳鼻咽喉科に入局。このたび、平成18年11月より当院耳鼻咽喉科へ勤務させていただくこととなりました。当院の前は鹿児島市立病院に勤務しており、すぐ近くの異動となったわけですが、システムの違いもありなかなか戸惑うことも多い毎日です。宿舎に引っ越してきて、部屋もやっと落ち着いてきたところ。いろいろと御迷惑をおかけすることもあると思いますが、よろしくお願ひいたします。

第二循環器科レジデント



うえの ゆういち
上野 雄一

平成16年に鹿児島大学医学部を卒業し、鹿児島大学病院にて研修し平成18年4月1日より(旧)第二内科に入局し、同年10月1日より循環器内科レジデントとして勤務することとなりました。循環器内科としての勤務は初めてであり色々ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、これからもよろしくお願ひいたします。

第二循環器科レジデント



こぞの まさや
小菌 雅哉

平成16年に鹿児島大学医学部を卒業し、慈愛会関連病院にて2年間研修。平成18年4月1日より(旧)第二内科に入局、この度同年10月1日より循環器内科レジデントとして勤務させて頂くことになりました。循環器内科としては未熟ですが、精一杯頑張りたいと思いますので、これからよろしくお願ひいたします。

研修医



もりた ひろし
森田 浩史

平成18年に福岡大学を卒業し、4月1日より福岡大学筑紫病院で研修していましたが、地元の病院で研修を望み、10月1日より当院で研修させて頂くことになりました。まだここに来たばかりで未熟な点も多くご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、頑張っていきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

MRI更新工事に伴うMRI検査中断期間のお知らせ

この度当院のMRI装置を更新することとなりました。これに伴い防磁シールドなどの工事が必要となり、この間MRI検査が出来ない状態となります。

工事期間は平成18年12月8日から平成19年1月21日までの予定ですが、長期の検査中断を避けるため工事期間の大部分(平成18年12月11日から平成19年1月12日まで)は、移動式のMRI装置(写真)を借り入れて設置し、少しでも影響が少なくなるように致しました。

それでも12月8日(金)の午後から10日(日)の間と、1月13日～21日の間はMRI検査が出来ません。従ってこの間はCTなどで対応せざるを得ないため脳卒中急性期診療などへの影響は避けられませんが、事情をご理解の上ご協力の程お願ひ致します。



平成18年度おはら祭に参加して

看護学校教員 間宮みどり

秋晴れに恵まれ、11月2・3日に55回おはら祭が開催されました。今年も自治会活動として2年生が中心になり、1年生34名、2年生95名、教員5名が総踊りに参加し、元気いっぱい「ヨイヨイヨイヤサット」と掛け声をかけながら晴れやかな踊りを披露しました。

太鼓競演の後おはら祭総踊りが開始し、鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校はみなと大通り公園前からいづる通りへと進行しました。鹿児島医療センターの職員の方や多くの観光客の方から「未来の看護師の卵なのね。」と期待の声援を受けました。また、横断幕や看板も鹿児島医療センター附属看護学校と新しく名称を変更し、鹿児島の方々への病院や学校のアピールにも繋がりました。

学生は7月からおはら祭に向けて準備を始め、「おはら節」、「鹿児島ハンヤ節」、「渋谷音頭」を覚えるために、実行委員がおはら祭りの振興会主催による振り付け講習会に参加しました。9月からは週に1回の全体練習を体育館で行い、1年生と2年生の交流や団結力を高めていきました。おは



ら祭当日は女子学生はメイクや髪を華やかに飾り“薩摩おごじょ”に、男子学生は“薩摩のよかにせ”に変身し、若さ溢れる笑顔で天文館を練り踊り、楽しい思い出を作ることができました。

今回、南九州を代表する伝統的な市民の祭、観光イベントとしてのおはら祭に参加することによって、学生は社会の一員として文化や地域の皆様とふれあい、壮大な踊りの輪を広げることができました。また、学生同士の絆がさらに深まり、今後の実習や学習、学校生活へのエネルギーを培ったと思います。



お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
 (代)TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246
<http://www.kagomc.jp>
 脳卒中ホットライン ▶▶ 090-3327-5765

〈地域医療連携室〉 濱田、岩下、石井、中島、田添、善福
 直通電話 ▶▶ 099-223-4425
 フリーダイヤル専用FAX ▶▶ 0120-334-476
 ※休日・時間外は当直者で対応します。

